



# 広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.  
2193

例会日・木曜日 12:30~13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会長 森信秀樹  
幹事 謙訪昭浩

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp  
作成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC [検索]



## 「ロータリー財団月間」

2014年11月27日 第2169回例会  
11月第4例会

### ◆ 会長時間 ◆

森信会長



皆さんこんにちは。11月2回目の連休が終わり、来週からは師走12月です。つくづく時間のたつのは早いと思うこのごろです。

一昨日、広島市民病院での会合の後、病院の中を見学する機会がありました。最初に案内されたのは新生児室で、いわゆる未熟児をサポートする部門でした。ちょうど親子の対面の時間でしたのでお母さんたちは保育器の中のわが子と触れ合うなどほほえましい光景があちこちで見られました。一方では小さな鼻の中に管を差し入れられて栄養補給か治療を受けているような乳児もいました。通常より早く産まれたり、体重が少なかつたりした乳児たちですが、スタッフにより手厚く看護されていました。思わず「早く大きくなってここから出られるといいね」と心の中でつぶやきました。

集中治療室の中を見た後、今まさに工事中の「ハイブリッド手術室」のフロアを見せて頂きました。来年春の完成予定とのことですが、これまで手術の内容によって患者を別々の機器の備わった手術室に移して手術を続けねばならなかつたものが、これが完成すると一か所で同時に2つ

以上の処置ができるという複合的な設備を備えた最先端の手術室になるようです。最後に救急車の搬入口から続いている救急救命室を見せて頂きました。まさにテレビで見るような医師看護師などのチームワークが伝わってくるような雰囲気でした。大切な命を預かり懸命に対処しようとする現場に頭が下がる思いと、近くにこのような病院があることにあらためて安心感と感謝の念を抱きました。

(注：医学的知識が疎いので理解不足の表現がありましたらお詫びいたします)

さて、本日は「飲酒運転ゼロへの想い」というテーマで三浦由美子さんにお話をして頂きます。後ほど詳しいプロフィールのご紹介があるかと思いますが、3年前に突然かけがえのない息子さんを飲酒運転による交通事故で失われた哀しみはわが身に置き換えるても心が痛みます。

三浦さんは、しかしそれを乗り越えて、飲酒運転ゼロを目指して講演活動や啓発のための音楽祭の開催などされておられます。

前段の話に続きますが改めて、「命の大切さ」を実感するとともに、自分たちへの戒めとしてお話を聞きしたいと思います。

最後に、かつて当クラブに所属されておられた洋画家三原捷宏さんが第35回広島文化賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

■ 神辺グループ7ガバナー補佐－インター・シティ・  
ミーティング出席依頼のご挨拶



■ 米山奨学会 米山功労者感謝状の贈呈



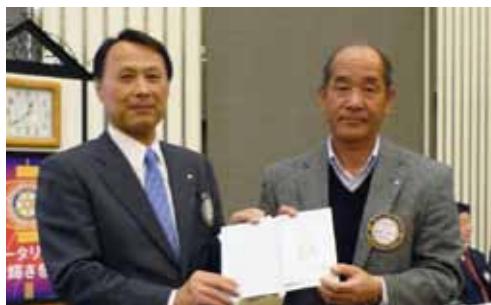
第5回 中村哲朗会員



上野純一会員



第4回 岡野賢太郎会員



田中健志会員



第3回 長谷川行信会員



第2回 斎藤昭一会員



第1回 堀江淳会員

● 会務報告 諏訪(昭浩)幹事

※年末年始の例会変更一覧をBOXに配布しておりますので、ご確認ください。

※ロータリーレートが12月から1ドル112円（現行106円）に変更になります。

※例会終了後、4階「ミモザ」において第3回創立45周年実行委員会を開催いたしますので、実行委員会メンバーは出席願います。

● 委員会報告

■ プログラム・出席委員会

出席報告 柴田委員

本日 (11月27日・木曜日)

会員数 76名 出席者 57名

欠席者 19名 ご来客 0名

ご来賓 2名 ゲスト 1名

計 60名

前々回 (11月13日・木曜日)

出席率 100%



## ●会員記念日



奥様お誕生日おめでとうございます。

園尾君 博子夫人 (4名)  
土井君 まり夫人  
香川(浩)君 淳子夫人  
上野君 和枝夫人

● 10月決算月おめでとうございます。

(2名)

三浦君 ルミウラ  
鈴木君 プルデンシャル生命保険広島支社



## ●スマイルボックス

SAA 香川(浩)委員長

### 神辺眞之グループ7ガバナー補佐（金一封）

ガバナー補佐として、訪問の度に手ぶらでしたので、気になっていました。  
気持ちだけですが……。スマイル（ニコニコ）をさせて下さい。

### 中岡君

浜井さんからの情報です。10月21日経済レポートによりますと平成22年、創立80周年を迎えた広島金座街商店街振興組合は記念誌を発行し冒頭の中岡弘夫理事長の挨拶文で王陽明の「水五訓」を引用し指針として「万物の源である水のように、金座街が広島活性化の源をめざし発展し続けていくことを誓う」と綴られてあり、その意思は昔も今も変わらず息づいているそうです。

金座街の益々のご発展を祈念しています。ご出宝下さい。

## ●例会料理メニュー



## ■卓話

### 飲酒運転ゼロへの想い



三浦 由美子 氏

どうして息子が命を奪われなければならないのか。

「帰りが少し遅くなるから」。

息子の伊織からメールがあつたのは、2011年5月2日の

夜8時ごろでした。高校2年だった伊織は自転車競技部に所属。4月の県大会は団体戦で2位の好成績を挙げ、ますます熱心に練習するようになっていました。その日も翌日からの合宿に備え、競技仲間がいる別の高校を訪問していました。

仕事から帰ったばかりの私は疲れから、うとうとしながら、伊織の帰りを待っていました。リビングの電話が鳴ったのはその時です。警察からでした。電話口で告げられたのは、とても信じられない内容でした。そう遠くない県道で自転車と軽乗用車が衝突したこと。自転車に乗っていた若者が全身を骨折し、心肺停止となり、ICUに運ばれました。そして自転車の登録番号が伊織のものであること。

一体、何が起きたのか、何をすれば良いのか。まったくわかりませんでした。娘に言って、何度も何度も伊織の携帯電話に連絡させました。まったくつながりませんでした。涙が頬を流れてくるのを感じました。娘はぶるぶる震えています。病院に向かう車の中で、主人は部活顧問の先生に電話しようとしたのですが、何度もうまくボタンが押せません。皆が激しく動搖していました。

伊織に会えたのは、夜中の3時を過ぎてからでした。伊織は顔を包帯に包まれ、ベッドに横たわっていました。包帯の間から覗く皮膚は腫れ上がり、両足の太もものは逆方向に曲がっていました。どう声を掛けていいのか、私は言葉が見つかりませんでした。目の前にいるのが果たして本人なのか、どうも確信が持てなかったのです。でも、親指の爪に付いていた歯の跡を見た時、「ああ、やはり伊織なんだ」と思いました。時々、爪をかむのが癖だったからです。

事故の詳しい状況はなかなか、わかりませんで

した。不可解だったのは、軽乗用車と正面衝突したという事実。急な飛び出しでもしなければ、正面衝突することはない。車との間隔に余裕があったら、避けられるはずですから。もしかしたら、息子の方に過失があるのでは、と最初のうちは不安に思っていました。

しかし通夜の日になって、事故に飲酒運転の疑いがあると報道で知りました。

やがて少しづつ全容が見えてきました。

あの夜、泥酔状態のドライバーの運転する車が中央線を大きく乗り越え、対向車線を走っていた伊織の目の前にいきなり現れ、はねたのが真相でした。伊織は車のフロントガラスに頭を突き入れ、ボンネットに乗った状態になり、車はそのまま100メートルも走り続けたそうです。そして対向車を避けた拍子に体は歩道に投げ出され、車は蛇行し50メートルほど先でやっと止まったということでした。

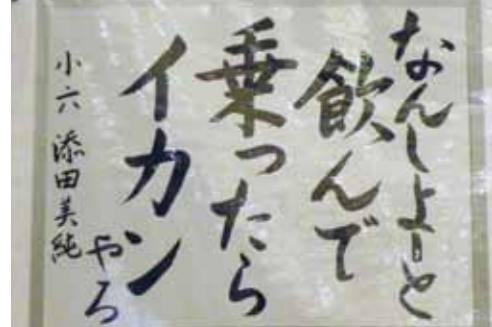
ドライバーはこの日、知人と店で飲酒した後に運転。ひどく酔っていて、事故を起こした直後も、駆け付けてきた人々に暴言を吐くなど、手の付けられない状態だったと言います。「まるで鬼のような形相だった」。現場にいた人から、後からそう聞きました。

供述調書を読み、事実が明らかになると、怒りと無念さで心が張り裂けそうになりました。「どうして私の息子が命を奪われなければならないのか」。「飲酒運転への社会の目は厳しくなっているのに、どうしてなくならないのか」。伊織の死をきっかけに、飲酒運転をわが身の問題として捉え、悲劇を防ぐよう、自分たちの力で何ができるかを考えるようになりました。事故から4ヶ月が過ぎるころには、飲酒運転根絶を呼び掛けるステッカーを配布するといった活動を始めました。私と同じように飲酒運転で子どもを亡くした福岡市や出雲市の母親とも知り合い、運動の輪を広げていきました。

アルコール依存症との関連も指摘される飲酒運転は常習性が強いのが特徴です。ことしの5月には、飲酒者自身の自覚だけでは防げないことから、根絶のための条例づくりを求める要望書も広島県に提出しました。ここ最近では、伊織の通った高校の生徒さんや保護者の皆さん、先生方たち

と「生命（いのち）のメッセージ展」を開催。交通事故や犯罪などで命を奪われた全国約150人のオブジェを展示しました。伊織のパネルのそばには、事故の衝撃で前輪が曲がった愛用の自転車も置き、飲酒運転の危険を訴えました。

進学して、成人して、結婚して、子どもがてきて・・・。そんな将来や命のつながりを伊織は失ってしまいました。それが何より悲しい。飲酒運転が厳罰化され何年もたつのに、悲惨な事故は今も後を絶ちません。広島県でも飲酒運転事故数と死亡者数が昨年を上回ったと聞き、あらためて憤りを感じます。もうこれ以上、誰一人として被害者にも加害者にもなってほしくない。今はそうした思いでいっぱいです。



### ●卓話予告

日時	テ　一　マ
12/11(木)	年次総会